

1年生30人が“カケヤ”体験



ボーリング

東北地質調査業協会（奥山清春理事長）は21日、仙台市立仙台工業高校で2022年度第2回地質調査講習会を開いた。土木科の1年生約30人が、校庭でのボーリングや表面波探査の実演などを通じ、地質調査業務への理解を深めた。

東北地質調査業協会 仙台工高で講習会



表面波探査

実習に先立つ座学では、橋本岳社副理事長兼広報委員長のあいさつに続き、吉田透技術委員会副委員長が講師となり、地質調査業務の概要などを解説した。

実演では、会員企業の東北地

質の担当者が校庭に機械式ボーリングマシンを設置し、掘削作業の手本を披露した。生徒たちは掘削状況や検尺などの作業状況を写真に収めるとともに、黒板への記入、柱状図の作成など、ボーリング作業の一連の流れを一同おり体験した。

応用地質が協力した表面波探査では、測定器を確認する本部班と、大型ハンマーで地面を打撃するカケヤ班に分かれて、表面波探査を経験した。本部班からの起振の合図で、カケヤ班がハンマーを振り下ろし、表面波を発生させた。生徒たちは解析結果とボーリング結果を合わせた解釈図を参考に、校庭の地質状況などを確認した。

※出典：建設通信新聞（2022年10月27日付6面掲載）

※上記記事の転載は、出典を明記する前提で、新聞社から了解を頂いております。

※掲載する都合上、一部画像を編集しております。